

今年も変わらぬ新茶の季節です。

茶畑便り

今年は桜も早かったですね。お茶も日本全体としては早いようですが。私の茶畑は例年並みですね。秋の刈取り時期との関連だと思えます。新茶は早くならない方がじっくりといい味に仕上がると信じています。年初めは雨が少なかったのですが、三月以降は定期的に雨が降り順調に育っています。

昨年から今年にかけて、茶畑の整備にじっくり時間をかけています。年々工夫を積み重ね、全身全霊集中してよいお茶を造ります。ご期待ください。



新芽が出てきました(4月12日)

新しい品種植えました。

このところ毎年少しずつ紅茶品種を増やしています。今年は緑茶の新品種のきらり31を三十アール植えました。茶畑の周辺の整備も含め年明けから三ヶ月間ずっと作業が続きました。時間があれば早朝から日が暮れるまでコンボに乗る日々で、マルチ張りりと植え付けで四日かかり、延べ三十人がかりの大海戦術で行いました。頑張った甲斐があります。戦国大名が城づくりになりました。茶農家は茶畑づくりだなぁと思ったりしますね(笑)。収穫は五年ぐらいたってからです。やぶきた品種より、うま味が強く緑色が濃い品種です。みなさまにおいしく飲んでいただける日まで丹精込めて育てていきます。



植え付け作業風景

継続は力なり。

コロナ禍の中でも小学校の淹れ方教室は依頼があれば受けるようにしていました。接触の機会を避けられないので、恒例の手もみ茶体験はできませんでしたが、代わりに乗用機械でのお茶刈りと製茶工場でお茶を揉んでいる所を町内の茶農家に頼んで撮影させてもらい動画を作りました。いつもは自分のお茶づくりだけで手一杯でしたが昨年はコロナ禍の影響で、生産量を抑えたため撮影する時間が取れました。小学生に実際の作業の様子を見てもらいたいと思っていたので念願の教材が自分の手で作ることができました。感染対策には気を使いましたが、何事もなく淹れ方教室を開催できてほっとしました。



マスク着用、距離をとった授業

うちの画伯 その③

みなさん。お元気ですか。新茶の季節がやってきましたね。茶畑は黄緑色にふくらんだ新芽に覆われてそれはそれは美しい風景です。何事にも動じず黙々と巡る、そんな自然界の強さを一層感じるこの頃です。さて今回の新茶便り。いかがですか。

市川大楽園専属の画伯(やれやれ)は考えました。みなさんに見ていただいただけで可愛い、なんだかやさしい気持ちに包まれる、そんな昭和チックで懐かしげな女の子を描いてみたいなあと。案の定私の方が楽しく優しい気持ちに包まれながら書くことができました。まだまだコロナ禍続きます。さわやかな香りの新茶を飲んでいただき、心もからだもポカポカと、どうぞどうぞくれぐれもご自愛ください。ご注文心よりお持ちしております！



猫と娘と画伯

市川大楽園製茶のお茶づくり



亀山のおっ茶ん

日本全国でも珍しい小売専門のお茶農家として10年以上やってきました。茶畑での栽培から手掛けなければできないお茶づくりを続けています。独自の豊富なアイデアの積み重ねでよりおいしいお茶を目標に頑張っています。



いちかわたいぞう
市川泰三

市川大楽園製茶代表。手もみ茶師範、日本茶インストラクター、紅茶アドバイザーなどのお茶に関する資格を多数取得。第三十回伊勢茶品評会にて農林水産大臣賞・三重県知事賞受賞

① 店主の市川泰三が茶畑の栽培から製造販売まで一貫してお茶づくりをしています。約5ha（東京ドーム一個分）の広々とした茶畑から出来の良いお茶を選びます。一年間見てきた茶畑ですから、もうけよりも自分が納得のいく良いお茶を材料にするよう心がけています。物心ついた頃からお茶の香りの中で育った勤ではありますが、独りよがりになってはいけません。自らお客様の前に立って試飲販売を行いお客様の生の声を聞いてお茶づくりに生かしています。



製茶作業中の店主

② 5日～7日間程度のかぶせを行い、緑濃くしてうまみを引き出す。若い芽の香りの良い部分を両立させて通常二週間かぶせるところあえて短い期間のかぶせにすることでバランスのとれた味に仕上げます。かぶせは手間のかかる作業ですがお茶の色が濃緑になり、うま味が増すので、早い時期のお茶にその方法を取り入れています。今では3haの面積にかぶせをしています。



数人がかりの作業です

③ 農薬の使用を半分におさえた、減農薬（特別栽培茶）の安心安全なお茶です。市川大楽園製茶のお茶は特別栽培でつくられています。特別栽培茶とは節減対象農薬の使用回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下でつくられたお茶です。**農薬の使用を半分に減らした、減農薬の安心安全なお茶なのです。**農薬を減らすことは虫や病気の被害を受けるリスクが高まりますがより安全なお茶を飲んでいただきたいという思いから取り組みを続けています。



生態系にも優しいお茶づくり

④ 完熟した堆肥を毎年たっぷりおいて土づくりには特に力を入れています。地元の辺法寺町内にある畜産農家から出た完熟たい肥を茶畑に置いています。完熟のため、悪臭もなく「かつおだし」のようなうま味の効いた甘い香りがするたい肥です。それを袋ごとたっぷり置きます。栄養たっぷりで土が柔らかくなるので茶畑の間を起こすとミミズがいっぱい出てきます。こうした土づくりが独特の深いうま味を創り出しています。



袋ごとたっぷり置いています